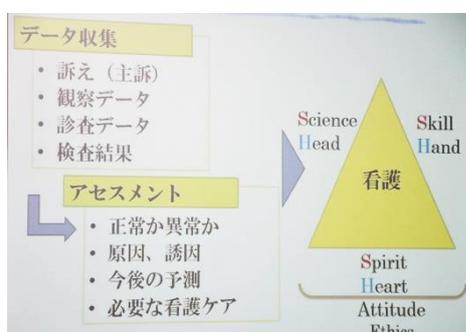


## 2020年度理系チャレンジ講座（第2回）を実施しました

6月24日（水）に医学部看護学科の清村紀子先生を講師に迎え、「安楽な呼吸を支援する～看護に必要な基礎的知識～」というテーマで、理系チャレンジ講座の第2回を実施しました。遠隔配信した白杵、三重総合、中津南、竹田、安心院、日田、大分西、大分雄城台、別府翔青、国東の10校269名が受講しました。

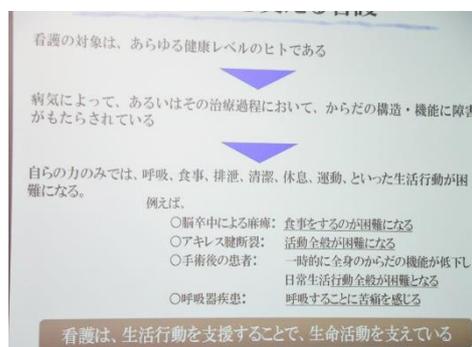


看護とは、支援のために正確なデータを収集し、アセスメントを経て Science(Head)-Skill (Hand)-Spirit(heart) /Attitude のバランスを見ながら看護の方針や程度を決めていくこと



であると話されました。そして生徒たちは呼吸器系、特に肺の働きについて、医療等の専門用語を多用した大学の講義とほぼ同等の説明を受けました。換気の5つの要素とは、気道・胸郭の柔軟性・肺弾性収縮力・胸腔内圧・呼吸筋であるとの説明がありました。また、狭窄の部位を診断する具体的な方法、肺胸郭の動きを生かしたスクイーミングという補助方法、口すぼめ呼吸での胸腔内圧を楽にする方法、安楽な呼

吸を支援する体位について詳細に学びました。「『生きている』状態とは代謝に必要な酸素や栄養を体外から体内に取り込み、不要なものを排泄することで、その状態を支え患者の困難な状態を少しでも楽にすることが看護の基本と言える。また、精神面での励ましを日々積み重ねていくことが患者の一番の支えにもなり得る点も忘れてはならない。」とも話されました。



専門用語も多く、理解しづらい箇所も多かったはずですが、受講していたのは看護師を志



望する生徒がほとんどであったためか、全員が集中し真剣にメモを取り傾聴していました。大学での学びを具体的にイメージすることもできたため、とても参考になったという意見が多く出されました。

授業後に実施したアンケートでは「総合的に判断して授業がよかった」(97%「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計。以下同じ)、「教員は真剣に取り組んでいた」(98%)、「受講生は授業に意欲的に取り組んでいた」(98%)という結果でした。遠隔配信については、「音声はよく聞こえた」(95%)、「映像はよく見えた」(89%)という結果が出ました。